

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成26年7月17日(2014.7.17)

【公表番号】特表2013-536157(P2013-536157A)

【公表日】平成25年9月19日(2013.9.19)

【年通号数】公開・登録公報2013-051

【出願番号】特願2013-512926(P2013-512926)

【国際特許分類】

A 6 1 K	38/00	(2006.01)
C 0 7 K	14/82	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	39/39	(2006.01)
A 6 1 K	31/675	(2006.01)
A 6 1 K	31/44	(2006.01)
A 6 1 K	31/404	(2006.01)
A 6 1 K	38/21	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
G 0 1 N	33/68	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	37/02	Z N A
C 0 7 K	14/82	
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	39/00	H
A 6 1 K	39/39	
A 6 1 K	31/675	
A 6 1 K	31/44	
A 6 1 K	31/404	
A 6 1 K	37/66	G
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
G 0 1 N	33/68	

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月27日(2014.5.27)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

配列番号4、配列番号1～3、および配列番号5～18から選択されるいずれか1つのアミノ酸配列からなるペプチドを含むがん治療剤、又は配列番号4、配列番号1～3、および配列番号5～18から選択されるアミノ酸配列からなるペプチドの組み合わせを含むがん治療剤。

【請求項 2】

ペプチドは配列番号4、1、および18から選択されるアミノ酸配列からなるペプチドである、請求項1に記載のがん治療剤。

【請求項 3】

がんは、肺癌、頭頸部癌、乳癌、肺腺癌、前立腺癌、腎臓癌、食道癌、骨癌、睾丸癌、子宮頸癌、消化器癌、膠芽細胞腫、白血病、リンパ腫、マントル細胞リンパ腫、肺の前がん病変、大腸癌、メラノーマ、膀胱癌、およびその他のがん疾患から選択される、請求項1又は2に記載のがん治療剤。

【請求項 4】

抗がんワクチンの形態、又はGM-CSFを含むアジュバントを1つ以上含む抗がんワクチンの形態で投与される、請求項1～3のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 5】

配列番号19～26から選択されるいずれか1つのアミノ酸配列からなるペプチドを含む、サイクリンD1に由来しない腫瘍関連ペプチドを1つ以上さらに含む、請求項1～4のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 6】

腫瘍関連ペプチドは、配列番号4、配列番号1～3、および配列番号5～18から選択されるいずれか1つのアミノ酸配列からなるペプチドとは異なるHLA-分子への結合能力を持つものから選択される、請求項5のがん治療剤。

【請求項 7】

毎月、毎週、または1週間に2回、繰り返し投与される、請求項1～6のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 8】

CD4+ CD25+制御性T細胞を含む免疫調節細胞集団を不活性化および/または排除する薬剤、又はシクロホスファミドを含む化学療法剤を1つ以上含む、請求項1～7のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 9】

化学療法剤はペプチドの投与前に単回投与されるものである、又は、シクロホスファミドは投与量300mg/m²でペプチドの投与前に単回注入されるものである、請求項8のがん治療剤。

【請求項 10】

スニチニブもしくはソラフェニブを含むTKI療法、または、インターフェロンもしくはインターロイキンを含むサイトカイン療法の後に投与される、請求項1～9のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 11】

サイトカイン療法の後、シクロホスファミドが単回投与され、その後1週間ほど毎日初回刺激のためワクチンが投与され、およびその後6ヶ月間以上2週間毎にワクチンが投与される、ワクチンとして使用する請求項1～10のいずれか一に記載のがん治療剤。

【請求項 12】

抗原特異的方法で細胞傷害性Tリンパ球(CTL)を活性化するのに十分な期間、適切な抗原提示細胞表面で発現するヒトMHCクラスIまたはII MHC分子上に負荷されたペプチドとCTLとを接触させることを含む、活性化CTLをin vitroで生成するための、配列番号4、配列番号1～3、および配列番号5～26から選択されるいずれか1つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用。

【請求項 13】

患者の免疫系の活性化または調節を検出および/またはモニターするための診断を補助する手段としての、配列番号4、配列番号1～3、および配列番号5～26から選択されるいずれか1つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用。

【請求項 14】

がんの診断における診断を補助する手段としての、配列番号4、配列番号1～3、およ

び配列番号 5 ~ 26 から選択されるいずれか 1 つのアミノ酸配列からなるペプチドの使用。

【請求項 15】

配列番号 5 または 6 に示されるアミノ酸配列からなる腫瘍関連ペプチド。